

膨張する中国とどう向き合うか

―近現代史の教訓と日本―

拓殖大学総長・学長
渡^{わた}辺^{なべ}利^{とし}夫^お

- * ミュンヘン会談という先例
- * 中国に与えた学習効果
- * 「韃靼戦略」でいこう
- * 放棄された韃靼戦略
- * 鬱勃たるナショナリズム
- * 覇権国家と同盟を結ぶ
- * 日英同盟破棄の教訓
- * 日米同盟の危機
- * 陸奥宗光に学ぶ
- * 民主党の思想的ベクトル



浅野 それでは開会いたします。（拍手）去年1月に渡辺利夫先生においでいただきました。その後、大震災があったりして大変だったわけですが、日本の防衛とか外交とかは東日本大震災に劣らずひどいことになっておりまして、今日はその辺を歴史的な視点も含めてお話しただけだと思います。

渡辺さんは拓殖大学の総長と学長をやっておられまして兼任はちょっと珍しいかと思えます。総長としてはセレモニー的な面も多いようですが、学長としては大学をいかに良くするかというところががんばっておられます。

長く拓殖大学の教授だった森本敏さんも渡辺先生が引っ張ってこられたのだったかと思いますが、今度、防衛大臣ということで、その話も

ちょっと最初に枕で振っていただければと思います。（笑）それではよろしくお願いいたします。（拍手）

渡辺 お暑うございます。渡辺です。よろしくお願ひします。森本防衛大臣の話が出ましたが、久方ぶりに全国紙のトップに「拓大教授」と載りましてちょっと大学は沸いています。この分野ではいちばん力のあるプロフェッショナルであろうと思えます。どう考えても前の二人とは実力が圧倒的に違います。（笑）

電話が参りましたので「それじゃお祝いをやろうか」と言ったら、「その時間はないよ」と。それで、そんなに長い防衛大臣でもなからうと思うので「じゃ終わったらご苦労会をやるるか」という話で終わっています。（笑）